

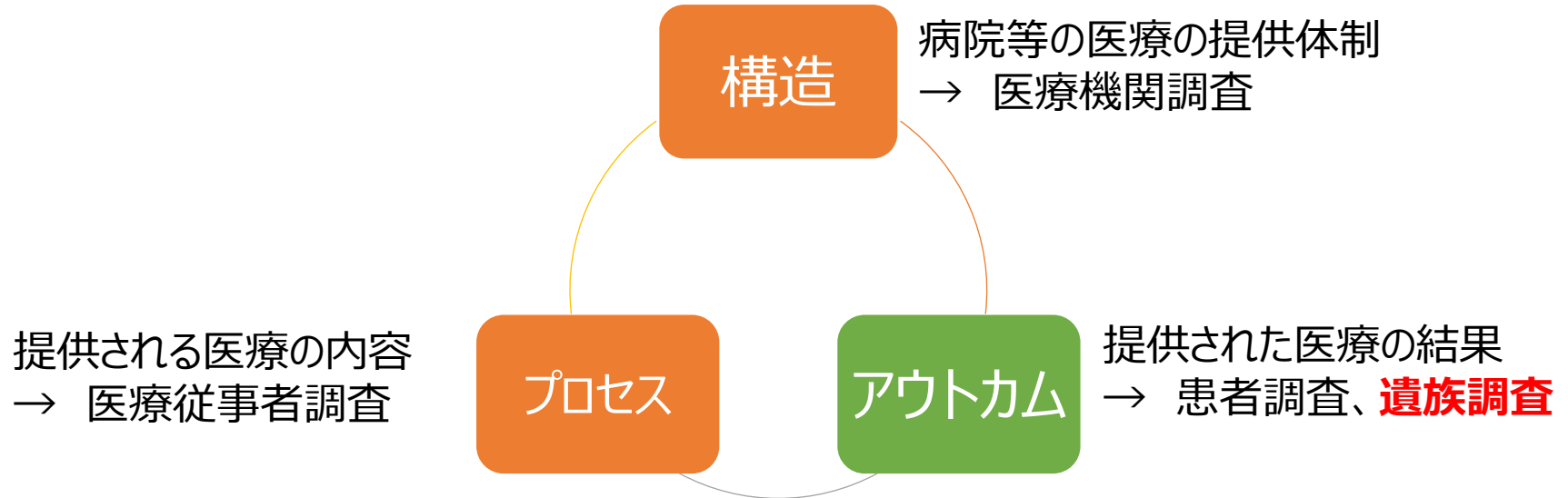
厚生労働省委託事業
がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業
「患者さまが受けられた医療に関するご遺族の方への調査」
概要

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん医療支援部 加藤雅志

なぜ遺族調査か

医療における質の評価：Donabedianモデル

わが国において適切な緩和ケアが提供される体制を整備していくために、緩和ケアの質を評価していくことが必要



厚生労働省委託事業

「がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業」

人口動態調査死亡票を用いた遺族調査の実施

【調査目的】

1次調査
(2018/1-3
月)

死亡票を用いた調査の実施可能性と内容妥当性を検討

2次調査
(2019/1-3
月)

終末期がん患者のQuality Of Lifeと終末期がん医療の質を明らかにすること

- ・ 死亡場所（病院・診療所，自宅，施設）による比較検討
- ・ がんと非がん（心疾患，肺炎，脳血管障害，腎不全）による 比較検討

【調査対象者】

「悪性新生物」「心疾患」「肺炎」「脳血管疾患」「腎不全」で

死亡した患者の遺族

【対象者の抽出方法】

- 厚生労働省統計情報部人口動態調査により、日本全国において平成28年に死亡が登録された者のリストを抽出。
- 死亡場所別および死因別の2段階層別無作為抽出法により対象者を抽出。

調査項目

患者の属性	年齢、性別、同居、診断から亡くなるまでの期間、ADL、認知症、医療費、世帯収入
亡くなった場所での医療の質	亡くなった場所での期間 終末期ケアの構造・プロセス (Care Evaluation Scale; Morita, Hirai et al 2004) 医療満足度(Morita, Hirai et al. 2004)
療養生活の様子	苦痛症状 (Memorial Symptom Assessment Schedule; Portenoy, Thaler et al. 1994) 緩和ケア受診の有無とその理由 療養場所 望ましい死の達成 (Good Death Inventory; Miyashita, Morita et al. 2008)
社会資源の利用	在宅診療や保険サービスの利用
患者の病状理解や希望	病状理解 療養場所についての希望や話し合いの有無 蘇生処置の実施の有無や希望 蘇生処置に関する話し合いや書面の作成
遺族の病状理解や話し合い	遺族の病状理解 患者と遺族の話し合いの有無
遺族の属性	年齢、性別、続柄、関係性 介護負担 (Caregiving Consequences Inventory; Sanjo, Morita et al 2009)
その他	遺族の精神状態、がん告知及び話し合い、アンケートの感想等

予備調査の結果：回答数

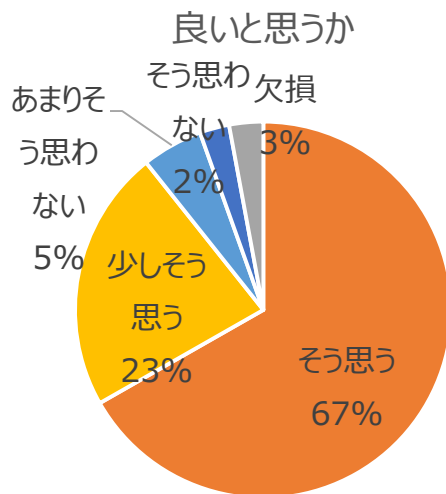
総回収割合は64%，有効回答割合は38%で調査の実行可能性が確認できた。
 今後、調査票を改善することで有効回答割合を向上できる可能性が確認できた。

	がん	心疾患	脳血管疾患	肺炎	腎不全	不明	合計
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	n	n (%)
配布数	3204	402	402	402	402		4812
不達数	426(13)	70(17)	79(20)	60(15)	45(11)		680(14)
総回収数	1859(67)	174(52)	187(58)	227(66)	210(59)	4	2661(64)
協力同意回答数	1140(41)	82(25)	99(31)	129(38)	124(35)	0	1574(38)
協力不明回答数	477(17)	49(15)	57(18)	68(20)	53(15)	1	705(17)
協力拒否回答数	242(9)	43(13)	31(10)	30(9)	33(9)	0	382(9)

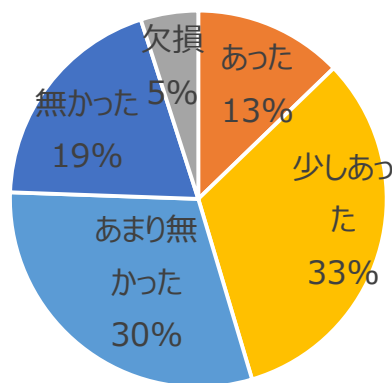
(2018.03.30迄回収分)

予備調査の結果：アンケートに対する感想

調査を行い医療改善することは



調査に回答して良かったことがあったか



感想（アンケート自由記載抜粋）

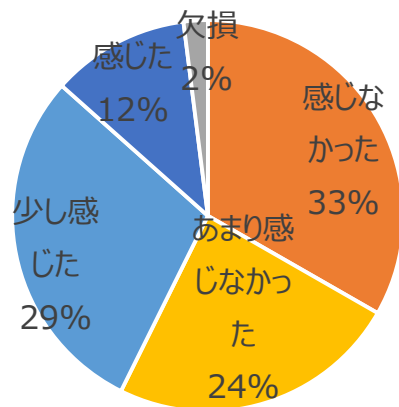
“大切な妻をがんで亡くしました。病院では先生をはじめ、スタッフの方々に本当に親切にしてください感謝しています。”

“最後を家で家族とより良く過ごせたことをうれしく思います。訪問診療の医師・介護職員の方々ありがとうございます”

“亡くなった後のアンケートと、介護者の声を聞く機会があることは良いと感じます。”

“アンケートに答えたことで、人の最後について色々と考えさせられました。このような機会をいただきありがとうございます。”

調査の回答がつらいと感じたか



遺族調査の今後について

- 引き続き、解析を行い、療養の生活の様子や亡くなった場所での医療の質等を明らかにしていく。
(ただし、結果の解釈には、死亡場所による患者・施設特性が影響するため、慎重な検討が必要)
- 遺族調査により、これまでに得られなかった療養生活の最終段階におけるがん患者の実態を明らかにし、専門的緩和ケア等の施策に反映させることで、がん医療の質の向上に活かす体制構築の可能性を探索する。